

希少なヤツガタケトウヒが生育する森林

西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林

設定目的

八ヶ岳及び南アルプスのみに分布するヤツガタケトウヒは、個体数が少ないことなどから環境省により絶滅危惧種（I B類）に指定されています。このヤツガタケトウヒを主体とし、天然カラマツ等も混交する個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

八ヶ岳火山群の南麓、標高一、八五〇メートルに位置し、南西向き斜面の土壌が薄く母岩が露出した部分にヤツガタケトウヒが生育しており、土壌が発達した部分にはミズナラが優占しています。

シリーズ

中部の保護林(第45回)

所在地
長野県諏訪郡富士見町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【北信森林管理署

水内森林事務所】

森林官 古田 誠

水内森林事務所は長野県栄村、山ノ内町にある五つの国有林約一三、六八ヘクタール及び新潟県津南町にある官行造林地を管理しています。

栄村にある国有林には、日本百名山である苗場山や、二百名山の



初冠雪の鳥甲山

佐武流山などがそびえ、その周囲には、中部局が設定した森林生態系保護地域や生物群集保護林など多様な森林が広がっています。

またこの地域は、秘境と呼ばれる秋山郷、長野・新潟・群馬各県からアクセスする豊富な登山ルート、里山巡りとして整備された信越トレイル・ぐんま県境稜線トレイルなど、初心者から上級者まで山と森林を楽しめるアクティビティが充実しています。秘境なのでアクセスが大変かと思いつながら着任しましたが、登山者や観光客に聞いてみると「首都圏からそれほど時間はかからないので楽だ」とのことでした。確かに、車で栄村から長野市内へ行く時間で新潟県長岡市や群馬県高崎市まで行けてしまいます。興味がある方は当管内にお越しいただき、紅葉を遠くから眺めるもよし、登山が厳し



エメラルドグリーンが美しい夏の中津川

いなら近くまで行って温泉巡りもよし、春の根曲がり竹や秋の舞茸など季節の味覚を味わうもよし、思う存分、栄村ひいては当署管内の市町村巡りをされてはいかがでしょうか。

■未来の担い手へのメッセージ

コロナ禍にこの事務所に異動しましたが、村の方々に温かく迎えられることができました。これも林野庁の最前線である地域密着型の森林事務所であり、諸先輩方が築き上げてき

た財産だと痛感しました。現場業務においては、奥山への往復で体力的にもきついときもあります。が、その中で業務が終了したときの達成感は格別です。さらに国有林は何度行った現場でも行くたびに四季折々の新たな発見があり、初めて行く現場はドキドキとワクワクが止まりません。ぜひこの地域密着型の職場で新たなドキドキとワクワクをしてみませんか。



信越トレイル調査中の筆者



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ
「私の森語り」
もりかた

「山は命の源」



名古屋学院大学
現代社会学部
いまむら かおる
教授 今村 薫

■自己紹介

私の専門分野は生態人類学で、人と自然の関係を探求する研究領域です。これまでアフリカや中央アジアの砂漠や乾燥地で狩猟採集や遊牧で暮らす人々の文化と生活を調査してきました。調査地から帰国する度に、日本の緑と豊かな水流の美しさと貴重さを深く感じるようになり、十五年ほど前から日本の山村の生活誌と森林利用を研究しています。

■活動内容

里山と人のつながりを知りたくて、飛騨市宮川村および長野県天龍村のお年寄りから、山の生活の歴史と実態を聞き書きしています。

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



す。春の山菜・筍(ネマガリダケ)採りから始まり、秋のキノコ採り、鹿や猪の狩猟、一年を通じた水田の作業、さらにかつての馬・牛飼、長い冬の暮らし方などの四季に応じた在来知、四季カレンダーと組み合わせられた祭りや伝統芸能を記録しています。



天龍村例祭における奉納舞

山村には縄文時代から続く日本の知恵がたくさん蓄積されているにも関わらず、どこでも聞く言葉が「山は荒れている」といった嘆きです。戦後、植林された杉・檜が手入れされずに密集したまま放置されている現状、鹿や猪が里においてきて畑をあらす獣害、これらに対処する人々の高齢化など、問題が山積みです。

現在、私ができることといえは、

できるだけ様々な場に参加して体験し記録すること、学生への啓蒙です。

これまで学生を引率して行ってきたことは、いなべ市での林業実習、郡上市の里山保全組織「猪鹿庁」での狩猟体験、飛騨市宮川村におけるフィールドワーク、犬山市での竹林整備と土中環境改善ワークショップなどです。

また、二〇一六年の『山の旦制定にともない、畠山重篤氏(特定非営利活動法人「森は海の恋人」代表)を大学に招いて公開シンポジウムを開催しました。海の水産物を育てているのは、山の落ち葉や



学生林業体験 (いなべ市)

有機物が河川を経て流れ着いたものであることを、学生や聴講してくださった一般の人々が理解してくれたのではないかと思っています。



学生狩猟体験 (郡上市)

■メッセージ

日本は、山に降った雨水が土中に潜り、その後、何度も地表に出ては地下水脈に戻るを繰り返した水流が、最終的に海洋に出ます。その意味で、日本の山は大きな水甕です。そして、その山に分け入れば、そこには多様な動植物が生きており、人間は生き物たちの時間に合わせて生きてきました。すべての命の源である山と森林の貴重性、重要性を、今後発信していきたいと思っています。

■連絡先

名古屋学院大学熱田区熱田西町1-25
名古屋学院大学現代社会学部
今村研究室

https://k-imamura.com/
PSCA/contact.html



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第45回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その九

小谷狩①

「山落とし」(第四十四回参照)で斜面を利用して降ろされた木材は、その後、谷筋を水



大正時代頃、川の上流部での小谷狩の風景(飛騨)丸太を並べた滑り台的な装置「シュラ」が多用され、「山落とし」と見た目は非常に似ている

主に利用した運材で徐々に川の本流まで送られていきます。この行程を総称して「小谷狩」と呼びます。

「山落とし」では主に自重で斜面を滑り落とされてきた木材ですが、緩勾配となるにつれ自重のみでは動きにくくなりま



大正時代頃の木曾での小谷狩の様子(上流部)

「小谷狩」では水も用いてその浮力を利用して運材を行います。ただし、同じ「小谷狩」と呼ばれる行程であっても、水量が少ない上流部と水量が増加する下流部とではその様相は大きく異なります。上流部での「小谷狩」の風景は「山落とし」とよく似ています。

大正九年、裏木曾からの神宮(伊勢)用材を谷筋で運搬する様子(現在の東濃森林管理署管内)。特に巨大な材であり一般的な運材風景とはかけ離れているが広義の小谷狩と言える。



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。



「木曾悠久の森」
管理委員会を開催

【計画課 木曾森林管理署】

木曾森林ふれあい推進センター

十二月四日、木曾署の会議室において、令和六年度「木曾悠久の森」管理委員会を開催しました。

「木曾悠久の森」は、世界的にも希少で貴重な存在であるヒノキ、サワラ等の木曾五木を含む温帯性針葉樹林を保存・復元するため、木曾地方の国有林に設定している「森林生物多様性復元地域」の愛称です。学識経験者や地元関係者等で構成する管理委員会を設置し、ご意見をいただきながら取り組んでいます。

今回の管理委員会は、伊勢神宮式年遷宮の行事の一つとして令和八年に開催が予定される「仮御樋代木伐採式」の御用材の伐採計画案についての意見聴取を行いました。委員会の開催に先立って、委員による現地確認を行い、伐倒の方向や伐倒・搬出に伴う支障木の発生状況等について質疑応答を行いました。



御用材候補木の現地確認の様子

委員会においては、出席委員全員により適当と判断され、このほか、特殊用材の需要・要望に対する対応手順や、赤沢自然休養林における危険木の取扱いについて、検討を行いました。

「木曾悠久の森」の取組は、数百年の超長期に及ぶものであることから、管理委員会の委員や地域の関係者等から意見を頂戴しながら、引き続き、一步一步着実に取組を進めてまいります。

「木曾悠久の森」設定十周年
記念シンポジウム開催のご案内

「木曾悠久の森」は、平成二十六年に設定してから、本年度で十年を迎えました。

温帯性針葉樹林の姿やその希少性、歴史的・文化的な建造物等の維持に果たしてきた役割を共有するとともに、自然生態系の回復に向けた先駆的な取組として、この森の将来の姿を地域とともに考えるシンポジウムを開催いたします。

日時 令和七年二月二十日(土曜日)

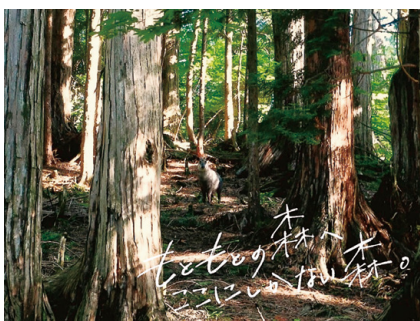
十三時～十六時三十分

会場 上松町ひのきの里

総合文化センター

(長野県上松町 JR上松駅前)

お申込み不要・参加費無料です。



地域の皆様や関係者はもとより、一般の方々のご参加をお待ちしています。

5年ぶりに中部森林管理局にて対面開催!

「令和6年度
中部森林・林業交流発表会」

令和7年2月13日・14日の2日間にわたり、国有林及び大学、高校、民有林の研究機関等による森林・林業に関する試験研究、技術開発、地域連携の取組についての交流発表会を開催します。

プログラム等の詳細は、後日HPにて公開します。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

明けましておめでとうございます。お正月にはおせち料理、年末は黒豆・田作り・数の子・紅白なます・松前漬け・筑前煮・ぶりの照り焼きなどの準備に勤めました。それぞれの食材に縁起を担ぐいわれがあり、買うにせよ作るにせよ、習わしとして、年初を祝う気持ちとともに大切にしたいと思います。

近くの神社では材料確保と技術の伝承が困難となり、しめ縄飾りが全て合成繊維製となりました。しめ縄づくりの技術としては継承されていても身近とは言えなくなる、おせち料理もいづれ同じようになる(すでになっている?)のでしょうか。

巳年は新たな挑戦や変化に前向きになる年だそうですね。どんな年にするかは自分次第!今年もどうぞよろしくお祈りします。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

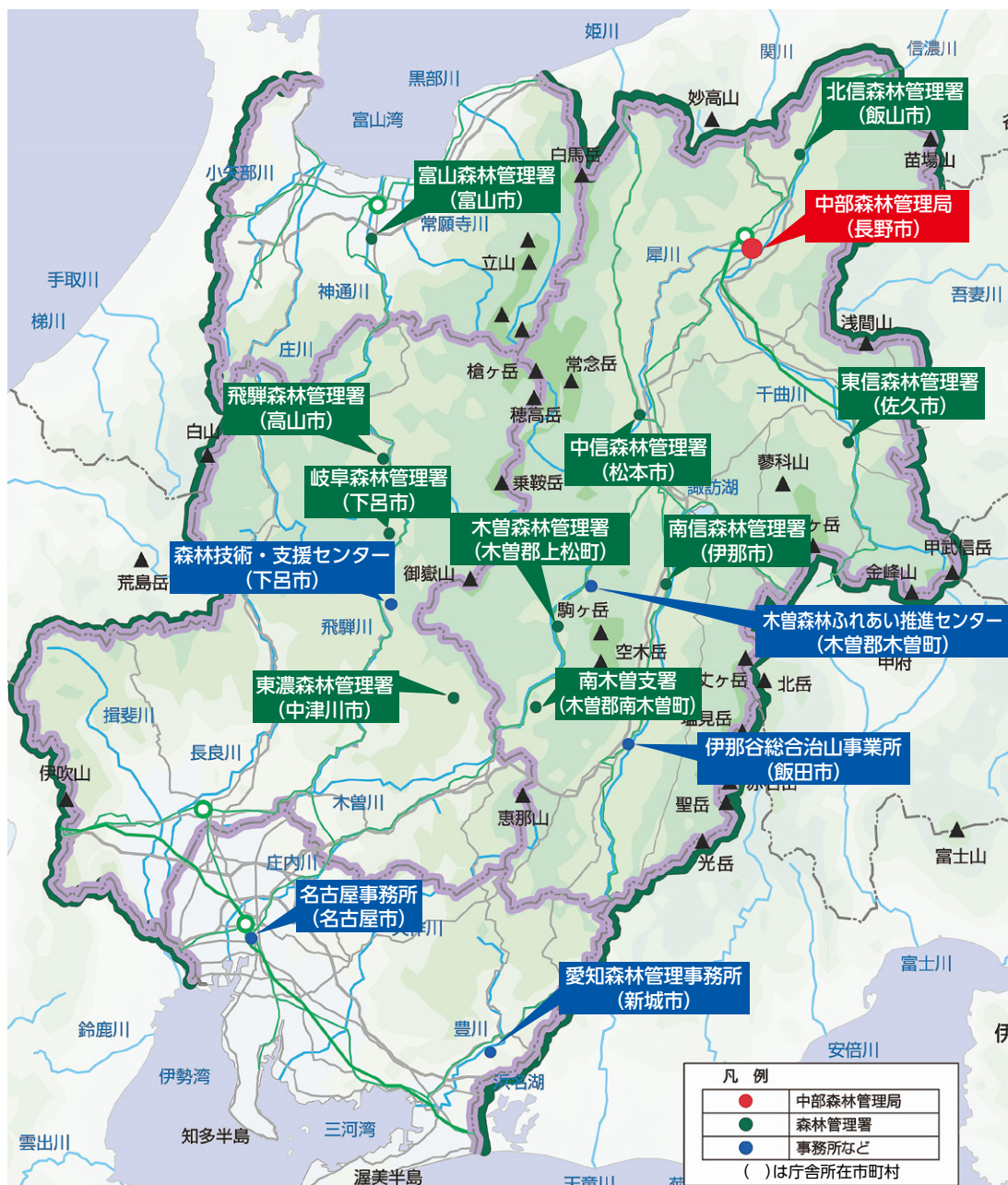


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。